

県内の患者数

	今週	前週		今週	前週
インフルエンザ	↓ 46	119	百日咳	↑ 2	0
RSウイルス感染症	↓ 1	2	ヘルパンギーナ	↓ 49	54
咽頭結膜熱	↓ 16	21	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	↓ 4	5
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↓ 68	119	急性出血性結膜炎	→ 0	0
感染性胃腸炎	↓ 465	612	流行性角結膜炎(はやり目)	↑ 19	17
水痘	↓ 45	53	細菌性髄膜炎	→ 0	0
手足口病	↓ 105	121	無菌性髄膜炎	→ 0	0
伝染性紅斑(りんご病)	↓ 0	1	マイコプラズマ肺炎	↑ 2	0
突発性発しん	↓ 29	40	クラミジア肺炎	→ 0	0
			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	↑ 7	5

報告が多い感染症

- 感染性胃腸炎
- 手足口病
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

大きな流行が発生又は継続しつつある地域

感染性胃腸炎：山鹿、菊池、有明、宇城  
手足口病：八代、水俣、宇城

◆◆◆保健所別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

保健所名	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎(ロタウイルス)
熊本市保健所	18	1	3	18	103	10	29		8		16	1		17			1		6
山鹿保健所	1				32	2	3		3				*	*					
菊池保健所	11		3	18	83	6	10		6	2	16			1					
阿蘇保健所	1			3	3	1							*	*					
御船保健所					8								*	*					
八代保健所	1		2	5	48	4	17				2								
水俣保健所	1		1	2	2	1	16		2				*	*					
人吉保健所	2			3	47	2	11		1			1	*	*					
有明保健所	2			2	62	11	9		3		4								1
宇城保健所	4		4	13	48	4	10		2		2	1	*	*					
天草保健所	5		3	4	29	4			4		9	1		1			1		
計	46	1	16	68	465	45	105		29	2	49	4	0	19	0	0	2	0	7

◆◆◆年齢別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

インフルエンザ定点	合計	0~5カ月	6~11カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80歳以上
インフルエンザ	46			2	1	2	2	1	2	1	1	1	8	8	4	6	1	4			1
小児科定点年齢	合計	0~5カ月	6~11カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20歳以上						
RSウイルス感染症	1					1															
咽頭結膜熱	16		4	3	3		1	1	1	1	1		1								
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	68			1	7	9	9	9	7	7	5	2	9		3						
感染性胃腸炎	465	6	41	64	35	40	31	32	38	40	30	23	49	5	31						
水痘	45	1	5	8	7	10	3	6	3			1									
手足口病	105		5	25	29	17	13	6	3	3	1		2		1						
伝染性紅斑	0																				
突発性発しん	29	2	14	12	1																
百日咳	2													2							
ヘルパンギーナ	49		4	14	15	4	4	2	2	1	1		2		1						
流行性耳下腺炎	4						1		1		1		1								
眼科定点年齢区分	合計	0~5カ月	6~11カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70歳以上	
急性出血性結膜炎	0																				
流行性角結膜炎	19				2				1						5	7	2	2			
基幹定点年齢区分	合計	0歳	1~4	5~9	10~14	15~19	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70歳以上				
細菌性髄膜炎	0																				
無菌性髄膜炎	0																				
マイコプラズマ肺炎	2			1														1			
クラミジア肺炎	0																				
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	7	1	4	2																	

百日咳(四種混合ワクチン)の予防接種を受けましょう

百日咳は、百日咳菌の感染で起こる、特有のけいれん性の咳発作を特徴とする急性気道感染症です。いずれの年齢でもみられますが、小児が中心となります。乳児期早期から感染し、1歳未満の乳児、特に6か月齢以下では重症化し、肺炎や脳症などの重い合併症を起こすことがあります。

先日、宮崎県内の中学校で、百日咳(疑いを含む)の集団発生が報告されました。これは、過去に受けたワクチンの効果が低下してきたことが原因の一つと推測されています。成人の百日咳は、乳幼児への感染源となることがあり、注意が必要です。県内では、報告数は多くないものの、1週間に1~2件の報告があります。

現在、百日咳の予防として、4種混合ワクチン(百日咳、ジフテリア、破傷風、ポリオ)が定期接種となっています。乳児を百日咳から守るために、定期接種の対象者で、まだ予防接種を受けていない方は、早めに予防接種を受けましょう。



感染経路

鼻咽喉や気道からの分泌物による飛沫感染、及び、接触感染

症状

- ・普通の風邪症状で始まり、1~2週間で咳が強くなり、咳発作が起こるようになる。
- ・連続した咳の後、最後に大きく息を吸い込む。
- ・咳を繰り返した後で、最後に透明粘性痰を出して発作が終わる。

治療

- ・抗生剤の投与
- ・対症療法

予防策

4種混合ワクチンの接種

標準的な予防接種スケジュール

- ① 1期初回 生後3月から生後12月に、20~56日の間隔を置いて3回
- ② 1期追加 初回接種終了後、12月から18月の間隔を置いて1回



KKT 医療ナビ! Dr. テレビたん

<http://www.dr-tvtan.jp/>

情報提供：熊本県健康福祉部 健康危機管理課